

妻 VS 夫

3対3対談

普段の生活の中で「他の家庭はどうしているのだろう」、「直してほしい」と思うことは、たくさんあるのではないだろうか。

今回は、以前に学童保育室を利用して3組のご夫妻にご協力いただき、普段言えないあんなことやこんなことを「妻3人」対「父3人」という形式で議論する場を作りました。「そう思ってたのか」ということからちよつと恥ずかしいことまで、気になる議論の様子をまとめたのでご覧ください。

参加者



男女共生推進会議（進行）
内藤会長（右）、竹内さん（左）

内藤会長…子育ての経験から何かエピソードはありますか。

和子さん…うちは一人目の子の夜泣きがひどくて、色々調べたら、生後1か月間を母親のお腹の中に近い環境で育てて、父親や兄弟には合わせないと良いという話があったんです。二人目が生まれたとき、その通りに育てたら本当に夜泣きをしなかったんです。その代わり旦那は生後1か月間子どもを見ることもできなかつたんです。ちよつとかわいそうでしたね。

理恵さん…うちは、私が家事で手が離せないときに、子供が泣いているのを見てくれなかつたことがありました。男性は思ったことは言っただけで、その時は私は何も言わず態度に出してしまいましたね。あと、夕食後に私が疲れて寝てしまったときに、洗い物をしておいてくれた時があった。それはありがたかったです。そういうことがあると私も頑張ろうと思いますね。



英武さん…子育てが嫌いなわけではないんですけど。おむつ交換とかはよくやりました。手伝いに関しては良かれと思ってやってもかえって怒られたりして、下手に手を出すのも良くないと思います。家事と子育ての大変さは、見ているだけで伝わってくるので感謝しています。

内藤会長…皆さんの家庭では家事はどちらがやっていますか。
和子さん…うちは夕飯を作るのは私で後片付けは主人がやってくれます。
維之さん…うちの場合は結婚当初

コラム

越生町男女共生フォーラムに参加して

12月1日に行われた越生町男女共生フォーラムでは、奥山和弘先生に『男女共同参画「途中の一步」—「しか」から「でも」へ—』という演題で、男女共同参画社会とはどのような社会なのか、その必要性や課題などを、私たちの身の回りの具体例を交えて分かりやすく説明していただきました。

今回の講演では、「適材・適時・適所」という考え方の話がありました。これは「できる人が、できるときに、できることをやる」ということが大切であるというもので、男女共同参画社会の実現のためにはとても大切な事だと感じます。

また、「平均的な事実を一般化しない」という話もありました。私たちは、普段生活する中で無意識に「男性は強い」、「女性はやさしい」など、平均的な事実を一般化してしまい、「男性（女性）だからあれをやる」といった考え方が



品木諭吉さん
歩美さん

島田英武さん
理恵さん

互維之さん
和子さん



妻の仕事が忙しかったので、当時は夕飯も私が作っていました。今は妻がその仕事を辞めたのと、料理も妻の方がうまいので作ってもらっています。

歩美さん…うちは主人がよく作ってくれます。

諭吉さん…早く帰れるときは作りますね。もともと料理は嫌いじゃないんですけどね。それにいつもおいしいと言って食べてもらえるので、うれしいし作り甲斐があります。あと、妻が作るとカレーがスープカレーになっていたりして・・・。

歩美さん…私自身、食に対してあまりこだわらないタイプなので

料理する時も「食べればいい」という感覚で作ってしまうんですよね。

竹内さん…女性の仕事という観点ではどうでしょう。

和子さん…私はこれからパン屋を始めようと思っています。商品に関しては自分で考えるのですが、利益の計算とか事務的なことはよく分からなくて大変です。そんな時、主人が相談に乗ってくれるので感謝しています。主人も協力的なので、私も前向きになれますね。

歩美さん…私はネイルの仕事をしています。以前は仕事が終わって帰ってきた主人に手を借りて練習していることもありましたね。将来はネイルの学校で教える側に回りたいので、働きながら日々勉強という感じです。

和子さん…理恵さんは美容師の資格を持っていますよね。将来うちでパン屋を始めたら、その店で定期的に品木さんのネイルイベントを開いたり、出張美容師として、理恵さんに来ていただいたりしても面白そうですね。もちろん男性にも協力していただいて。みんなで町を活性化できると良いですね。

をしてしまうことがあります。しかし、中には「力のあるたくましい女性」や「力はないけど穏やかで誰にでも優しい男性」もいます。性別に関係なく、人それぞれの個性を生かせる社会の実現のためには、この「平均的な事実を一般化しない」という考え方がとても重要です。

今は、男性も女性も様々な分野で活躍する時代になってきています。大人の考えで、将来様々な分野で活躍する今の子どもたちの道を狭めないために、「男性（女性）だから」という考え方を「女性（男性）でも」という考え方に変えることが大切です。

この越生町を、性別にとらわれないことなく、だれもが住みよい地域にするために、身の回りのことに少しずつ「男女共同参画社会の考え方」を取り入れていきたいと思います。



男女共生推進会議
副会長 藤野正秀さん